

Anchor's PERSON



有限会社 明石設備
代表取締役

遠藤 高史

創業から半世紀、今や埼玉県下で確固たる信頼を築く設備工事会社「明石設備」。
並行してアイデア商品の開発も始め、蛇口凍結を防止する「でるモン」を生み出した。

全く異なる二つの事業だが、遠藤社長の根底にある想いに違いはない。

お客様のため、世のため人のために、自分に何ができるか——

いつだって社長はそのことを第一に考え、日々たゆまぬ努力を続けてきた。

設備工事の技術と独自のアイデアで、今後も人々の困り事を解決へと導いていく。

**「お客様のため、人のために、
この技術とアイデアを使いたい」**

遠藤社長の奥様と会長を交えて記念撮影



有限会社 明石設備

埼玉県ふじみ野市桜ヶ丘 1-15-29

URL : <https://dellmon.jp>

水回りのプロが発明!

蛇口凍結を防ぐ「でるモン」



代表取締役
遠藤高史

▶▶▶一般住宅やマンション、保育園などの設備工事を手掛ける『明石設備』。特に水道工事を得意とする、水回りのプロ集団だ。その一方、同社では独自の商品開発も行っており、現在は蛇口凍結防止カバー「でるモン」を売り出し中だという。同社の二代目・遠藤社長に、松尾伴内氏がインタビューを行った。

—遠藤社長は御社の二代目でいらっしゃるそうですね。

ええ。当社は1970年創業で、創業者は私の義父です。だから私の姓は遠藤ですが、社名は『明石設備』なんですよ。代替わりして私が現職に就いたのは15年前。義父は現在会長を務めています。

—なるほど。社長は元々この設備工事業界で経験を積まれていたのですか。

いえ、元々は大手輸入車ディーラーで整備士をしたり、運送会社に勤めたりし

ていました。20代半ばで結婚し、それを機に当社へ加わって、会長に一から教わってきたんです。お世話になった会長の会社ですから、引き継ぐ時には「絶対に潰せない」というプレッシャーも大きかったですね。それでも従業員やお客様、周囲の方々に支えられ、ここまで歩んでくることができました。本当に良い方々とばかり出会ってきましたので、私はつくづく人に恵まれていると思います。

—先ほど会長ともお会いしましたが、社長から見てどのような方ですか。

一言で表すなら「仕事一筋」ですね。お客様から頼まれれば、どんなに納期が厳しくても断らず、寝る間を惜しんで仕事をする姿を見てきました。とにかく仕事に一生懸命ですし、お客様との約束は絶対に守ります。そういう姿をととても尊敬していますね。

余談ですが、私は父子家庭で育ち、中学1年生の時には父を病気で亡くしたんです。それからはずっと姉と二人で暮らしていました。だから私にとって会長はもう一人の父親のような存在なんです。

▶▶▶受け継がれる設計・施工の技術力

▼『明石設備』を創業した会長は、元々郵便局員だったという。そこから設備工事業界に移り、技術やノウハウは全て独学で培っていった。一般的に設備工事業者は施工に特化するケースが多いが、会長は「他に誰もしていなかったから」と図面の描き方も修得し、設計から施工までの一貫体制を確立している。

▼それは現在においても、同社の一番の強みだ。施工だけでなく設計も一手に請け負え、顧客の様々な要望に応えられる。少数精鋭の会社としては異例のことである。そして遠藤社長もまた、会長の指導のもと、設計・施工の両方を学んだ。会長から社長へ—設備工事の秀でた技術力は確かに継承されている。



蛇口凍結防止カバー でるモン 5,478円(税込)

▶▶▶「でるモン」は『明石設備』で販売する他、楽天市場でネット販売も行っている。また、現在販売するのはシンプルな白のデザインだが、左写真のように様々なバリエーションも考案中。デザインも社長自身が手掛けており、保育園や学校で子どもたちに喜ばれるような、可愛いデザインを試行錯誤しているところだという。

いつも親代わりになって面倒を見てもらってきました。心から感謝しています。—そんなご恩に報いるためにも、今は経営に動まれているわけだ。社長がお仕事で大切にされていることは?

一番は、お客様の立場になって考えるということですね。たとえ私にとっては大変なことでも、お客様のためになる仕事をする。私自身も職人たちが「どうすればお客様が喜ばれるか」を常に考え、共有しています。そして、お客様が求めることは可能な限り、サービスの範囲内でやらせていただいているんです。また、お客様から預かった工事費用についても、必ず使い切るということはなく、浮いた場合は返金するようにしています。

—言ってしまうと、いくらでも工事に掛けられるお金ですね。それも逐一返されるというのは、信頼できる対応です。本当にお客様に寄り添ってられる。そうした誠意はお客様にも伝わっているかなと思いますね。「あそこの業者は良かった」とお客様から口コミが広がり、さらなるご依頼へとつながっているんです。このコロナ禍においても当社はほとんど影響を受けていません。今も対応し

切れないぐらい、設備工事のご依頼をいただいているんですよ。—このご時世に素晴らしい! 今後も安泰なのではないでしょうか。

いえいえ、楽観視はできません。日本は人口減少が続くので、建設業界も仕事量は減っていくでしょう。十数年後には3軒に1軒が空き家になるとも言われています。そんな中で、どう生き残っていくか。一つの活路として、当社ではアイデア商品の開発を始めました。2019年には、この蛇口凍結防止カバー「でるモン」の販売をスタートしました。特許も取得したので、世界に一つの商品です。—それは凄いです! 面白いネーミングですし、見た目も可愛いです。寒くなると蛇口は凍結するものなのですか。

ええ。冬場の工事現場ではよくあることです。また、当社は保育園を新築する際の設備工事を手掛けることもあるのですが、そこで園の方から蛇口の凍結について相談されることもありますね。それで「蛇口が凍らないようにできないか」と考えるようになり、「でるモン」を作り始めたんです。3Dプリンターも購入し、使い方やプログラミングも一から勉

強して試作品を作りました。その後に金型屋さんと形状について何回もすり合わせ、量産体制を整えていったんです。—社長ご自身で一から作り上げたのですか! 努力家でいらっしゃる。

私は現場に出て施工もしていますので、仕事の合間を縫ってですね。私は「こういうのがあると良いな」「便利だな」とアイデアを練るのが好きなんです。誰か困っている人がいれば、それを解決できないかと考え、これまで色んな物を作ってきました。この「でるモン」に関して、工具不要でワンタッチ取付ができるようにしており、誰でも簡単に使えることをコンセプトにしています。保育園や学校をはじめ、色んなお困りの方に使っていただきたいですから。

—建設工事と同じで、社長は「人のためになる」ことが第一なのでしょうね。この「でるモン」に限らず、今後も様々なアイデア商品を作っていきたいと思っています。そうして設備工事とアイデア商品の二本柱で経営を続け、従業員も増やし、会長から引き継いだこの会社をさらに大きくしていきたいですね。

(2020年10月取材)



松尾 伴内 (タレント)

毎日多忙な日々を過ごす遠藤社長ですが、奥様は「家庭も大事にしてくれています」とおっしゃっていました。社長ご自身「原動力は家族」と断言されていました。また、会長にもお話を伺うと、「真面目で研究熱心」と社長を称していました。お仕事に一生懸命でお客様想い、そしてご家族想いでもある。そんな社長の優しくて人の良いお人柄を感じられる対談でした。

